



日本森林ボランティア協会のみなさん



NPO法人 日本森林 ボランティア協会

NPO 法人日本森林ボランティア協会は、平成9年「月に一度は山仕事」をスローガンに設立。平成12年にNPO 法人として登録され、近畿地方に10箇所以上あるフィールドで主に人工林の整備活動を行っています。

また、森林整備に必要な知識や技術を学べる森林大学を運営し、ボランティア人材の養成にも力を入れています。

森づくり・人づくり

日本森林ボランティア協会は、鳥取県で大阪YMCAの森林整備プログラムのサポートをしたことがきっかけで、大阪近辺でも同じことができなにかということから、元YMCAの職員や元林業関係者などが中心となり、平成9年に設立されました。

現在は大阪、京都、兵庫のほか、滋賀や三重、和歌山など国有林・民有林あわせて10箇所を超える森林をフィールドとして活動しています。

会の特徴として、森林大学での森林ボランティアリーダーの養成があげられます。発足当時から運営し、今年度で27期生を送り出した森林大学は、森林の仕組みや林業の現状、ボラン

ティア活動の運営などを学ぶだけでなく、実際の間伐の仕方や、救急法などの実習を行う市民大学です。

森林大学の受講生は、山が荒れているのを見て、何とかしたいという思いを持った登山経験者や小さいころの薪割り体験、親に山へ連れて行ってもらった経験がある人など、学生から定年退職者まで様々ですが、年齢や職業を超えてともに学んでいます。また、実家に山を持つ地方出身者が山の手入れの方法を学ぶために受講することもあります。

修了後は、会の活動への参加や各フィールドでボランティアリーダーとして活躍しています。



森林大学の救急法実習の様子



箕面国有林での作業説明の様子



ベテランからの作業指導



NPO 法人 日本森林ボランティア協会

- 会員数 約 300 人
- 活動フィールド 箕面国有林、金剛山など
- ホームページ <http://www.npomori.jp/>

会にとって初めてのフィールドである大阪府箕面市の「箕面国有林」では、設立当時の平成9年より枝打ちや間伐など人工林の整備活動を行っています。当時は森林整備ボランティアが国有林で活動すること自

先駆けとなった

国有林での活動

を確保していることに加え、メンバーは森林大学の修了生が多いため、ここ数年は事故もなく、安全に活動が続いています。各フィールドにはベテランのリーダーを配置しており、そのリーダーの運営の下、月に一度から二度の頻度で活動を行っています。

フィールド活動を

行う上で

フィールドでは3〜4人一組で作業を行い、初心者には必ずベテランが付くようにしています。また「安全委員」を配置し、フィールド

体が異例でしたが、メンバーに林業経験者がいたことから、全国の森林ボランティアに先駆けて、近畿中国森林管理局と協定を結び、国有林での活動を開始することができました。現在は30人ほどが毎月活動に参加しています。

そのほか、森林大学の修了生



醒ヶ井・霊仙フィールドでの間伐作業

が所有している滋賀県湖北の「醒ヶ井・霊仙フィールド」での泊り込みでの整備活動や、吉野林業の流れを汲む大阪南部の千早赤阪村で間伐などを行っています。児童施設が所有する大阪府高槻市の「高槻美女山」では、子供の遊び場でもある雑木林の手入れや、ツリーイング体験などをを行っています。また、高齢

化の進む和歌山県伊都郡九度山町では、初めは炭焼きの応援や間伐などを行うボランティアとして関わったものの、今では地域と溶け込んで農作業の手伝いや休校した小学校の維持管理などをを行う地域ボランティアとして活動しています。

活動を支えるために



会は、人工林の整備を通して、少しでも日本の林業の応援ができればという思いで活動しています。昨年度からは一般財団法人セブニーイレブン記念財団の3年間の公募助成によって、活動資金を確保していますが、今後は、さらに助成金を受けられる事業を計画し、専属職員を配置するなど、持続的にボランティア活動を続けていける体制をつくりたいと考えています。東日本大震災の際は、多くのメンバーが早い段階から現地ボランティアとして駆けつけました。要請があればどこへでもいける、フットワークの軽い会を目指し、活動の輪を広げたいと思います。